allcinema

# 犯罪王リコ（1930）

LITTLE CAESAR

**メディア** 映画
**ジャンル** 犯罪　アクション
**製作国**　アメリカ
**色彩**　B&W
**時間**　80分
**初公開日** 1931/10
**公開情報** 劇場公開

**【解説】**

「民衆の敵」と共に３０年代初頭のアメリカ大衆に反暴力の世論を大いに煽った、ギャング映画の代表作であり、冒頭にも、両作の主人公が一人の実在のギャングの裏と表を現わすのだ－－と断り書きが付く。ダンサー志望のジョー（フェアバンクス・Ｊｒ）と地方都市でくすぶっていたチンピラのリコ（ロビンソン）は、東部に出て一旗あげるのだ－－と相棒を説明して、ＮＹの暗黒街に潜り込む。そして、ボスのヴィットリーがライバルのアーニーのカジノを襲う計画の陳頭指揮を執り、市警のマクルーア捜査主任を射殺。ボスも追い落して実権を握り、“ビッグ・ボーイ”と呼ばれるドンに認められるが、再びジョーを仲間に引き入れようとして、その密告で後任の主任フラハティに追い詰められ、一の子分のオテロを殺され、自分は古巣のドヤ街に埋もれてしまう。なおも執拗なフラハティの追跡は、新聞に彼の中傷記事を載せるという形で続き、それに乗ったリコは、抗議電話を逆探知され、ジョーとその妻のダンス・チームの看板の裏に潜んでいる所を、機関銃で撃ち抜かれて死ぬ。直情を絵に描いたような「民衆の敵」の主人公トムに較べれば、旧友ジョーとの絆に拘わり続けたリコはより人間的で、ロビンソンはその辺を抑制された演技で的確に表現してさすがである。ただ、描写自体の即物的なタッチに引きかえ、“ハードボイルド”に撤し得ぬそこらが弱点ともなった気がする。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | マーヴィン・ルロイ | Mervyn LeRoy |
| **原作** | ウィリアム・Ｒ・バーネット | William R. Burnett |
| **脚本** | フランシス・エドワード・ファラゴー | Francis Edward Faragoh |
| **脚色** | ロバート・Ｎ・リー | Robert N. Lee |
| **撮影** | トニー・ゴーディオ | Tony Gaudio |
| **出演** | エドワード・Ｇ・ロビンソン | Edward G. Robinson |
| | ダグラス・フェアバンクス・Ｊｒ | Douglas Fairbanks Jr. |
| | グレンダ・ファレル | Glenda Farrell |
| | スタンリー・フィールズ | Stanley Fields |
| | シドニー・ブラックマー | Sidney Blackmer |
| | ラルフ・インス | Ralph Ince |
| | ジョージ・Ｅ・ストーン | George E. Stone |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.